

小林慶行

大宮アルディージャ・MF



駒澤大学を経てプロ入りを果たした小林慶行は、今シーズンから J1 の大宮アルディージャに移籍。現在プロ 8 年目を送る。「常に上へ」という気持ちが小林を大きくさせ、成長を続ける。「プロ選手に調子の良し悪しはない」という言葉からは、プロ意識の高さを感じる。そんな小林の FORZA 駒澤独占インタビュー！

取材・文 遠藤雅之、伊藤優香

写真 川崎篤彦

悪い時もそれが自分

現在のこの自身の調子はいかがですか。

今肉離れしていますけど、普通です。というのも、プロ選手にとって、調子の良い悪いというのはないと思うんです。悪い時もそれがその時の自分だし、だからどんなにうまくいっていない時でも「普通です」と答えませ。それが自分なので。

チームの調子はいかがですか。

もっとももっともできるなというイメージが元々あったし、今の成績（4勝2分6敗の12位）には満足できてないです。今までやってきたものと新しいものとの融合は簡単にはいかないものだし、難しい面が出てると感じます。チームの可能性としてはもっともっと勝てたいと思います。

それではまず、V川崎（東京V）時代のことから伺っていきます。99年の開幕戦（3月6日清水戦@日本平）でプロデビューされ、プロ初ゴールも記録されましたが、この試合の事は覚えていますか。

すごく緊張して、普段の自分の体じやなかったという事は覚えていますが。ゲームに関しても散々な結果（13の敗戦）だったし、よくあのプレーで次の試合も使ってもらえたなというのが正直な感想です。ゴールはたまたま取れたんですが、今思うとどういふ形でも点を取ったというのは大きかったと思います。

では7年間プレーされたヴェルデイで1番の思い出は何ですか。

2年目に広島との試合で全治1年の右膝の大怪我をして手術したのが1番ですね。リハビリして復帰するまで丸1年かかったんですけど、復帰戦がまた広島だったんですよ。すごく怖くて緊張したんですが、その試合でホベイロ（用具係）さんがユニフォームやスパイクに清めの塩をしてくれていたというのを後になって人づてに聞いて、こうやって自分のことを支え